

と
も
も
に

TO
MO
NI.

CLEANTECH GROUP
MESSAGE BOOK

環境とともに。地域とともに。

環境とともに。地域とともに。



産業廃棄物最終処分

株式会社 クリーンテック

〒960-0261 福島県福島市飯坂町中野字赤落27番
TEL: 024-541-2811 FAX: 024-541-2510

産業廃棄物中間処理

株式会社 クリーンテックサーマル

〒366-0812 埼玉県深谷市折之口1985番地
TEL: 048-572-3445 FAX: 048-572-3446

産業廃棄物収集運搬

株式会社 クリーンテックメディカル

〒366-0812 埼玉県深谷市折之口1990番地4
TEL: 048-580-6207 FAX: 048-580-6208

ともに

TO MO NI.

クリーンテックグループが大切にしていること。

それは、「ともに生きる」こと。

廃棄物について、環境について、

じっくりと耳を傾けることで、

自然に、人に、寄り添いながら生きていく。

人が必要としなくなった廃棄物で、

この美しい自然を汚してはならないという、

決意とともに。

私たちの命そのものである、

「空気」「水」「土」を守り、

自然とともに生きる。

それが、私たちに与えられた使命。

かけがえのない命の贈り物を、

かけがえのない子供たちの笑顔を、

未来へつなぐために。

「世の中の役に立ちたい」
その思いが今の自分たちを支えています。

これまで私が携わってきた仕事を振り返ると、きっかけのほとんどが「こんな問題で困っている。」という話でした。

当時勤めていたテレビ局を退職し、身障者授産施設の責任者を務めたときも、病医院専門リース会社を設立したときも、困っている人やそれを必要としている人がいるからこそ一念発起し、未知の世界に飛び込むことができたと思っています。世の中の役に立ちたい、人の悩みを解決したいという一心で、人との出会いや縁を活かし、たとえそれが茨の道であっても、「現状維持は衰退につながる」を信念に歩んできました。

平成に入り、医療の現場ではデイスポーツ（使い捨て）注射器など、感染性の医療廃棄物が急速に増加していきまます。その一方で処理体制の整備が追いつかず、山林などへの不法投棄が横行していることを知りました。そこで私は、人生で何度目かの大きな決断をし、最終処

百年後の地球環境を考えるのが、
私たちの使命です。

クリーンテックグループでは、さまざまなタイプの産業廃棄物の収集・運搬、焼却設備における中間処理、そして最終処分場への埋立てという一貫体制を整えています。これは、お客様の抱える問題を

解決するために必要であり、当社への信頼をいただくうえでも重要な要素であると考えています。しかし、私たちの次の課題は燃やすことでも埋めることでもありません。焼却や埋立ては最小限にとどめたいうえで、産業廃棄物処理やリサイクルをいかに安全に行うかが、当社が挑むべき大きなテーマであると捉えています。そして、私たちの使命は単に廃棄物を「処理」することではなく、何十年、何百年というスパンで将来を見据え、地球環境の保全に取り組むこと。それは、それぞれの時代に生きる子孫たちが健やかに暮らすためのお手伝いといえるでしょう。その前提として、私たちは皆様に安全と安心をもたらす存在にならなければなりません。安全

分場である飯坂クリーンサイトの建設に踏み切ります。「なぜ、こんな仕事を始めたのか」と多くの人から問われるほどの、まさに茨の道でしたが、未来の人類のためにも、この地球環境を守る義務と責任があると考えたのです。

現地に植えた「復興桜」の寿命は千年といわれています。ともに生き、生かされるために、千年先に思いを馳せ、この仕事を未来へつなぐたいと考えています。

クリーンテックグループ
創業者相談役名誉会長
反後 堯雄



を追求することはプロとして当然のことです。そのうえで、安心、していただくため、施設見学会や「クリーンテック通信」「サーマル通信」などを通じて情報発信に努めています。ものづくりをする企業が動脈産業であるとすれば、私たちはそれを陰で支える静脈産業です。スタッフ全員が地元の皆様と触れ合うことで意識を高め、公共心をもって事に臨めば業務の質も高まります。それは、私たちが末永く社会に貢献することにつながると信じています。

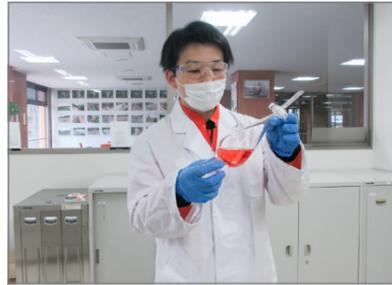
クリーンテックグループ
代表取締役
反後 太郎



クリーンテックグループのあゆみ

- 昭和56年 医療機関向けインテリア用品及び医療機器の販売会社として株式会社日本クリーンサプライ設立。関東一円の病院・医院に対して院内感染防止の為に、カーテン・カーペットのメンテナンス付リースの普及に務める。
- 平成元年 増え続ける使い捨ての医療廃棄物処理について最終処分の重要性、また不法投棄問題に直面し、医療機関より相談を受け、環境業界への参入を検討。
- 平成3年 最終処分場の必要性に鑑み、管理型最終処分場の運営を目的として、福島県福島市に株式会社クリーンテックを設立。代表取締役役に反後堯雄就任。
- 平成9年 福島県より産業廃棄物処理施設（第1期処分場）の設置許可を取得。同年、管理型最終処分場建設に着手。
- 平成13年 福島県より産業廃棄物処分業の許可を取得。産業廃棄物管理型最終処分場「飯坂クリーンサイト」の営業開始。
- 平成14年 産業廃棄物の一貫処理体制構築のため、中間処理施設の運営を目指し準備を開始。
- 平成15年 埼玉県深谷市の既存中間処理施設をM&Aにより取得。株式会社クリーンテックサーマルを設立。産業廃棄物中間処理施設「深谷クリーンサイト」の営業開始。
- 平成16年 日本クリーンサプライが、東京都より特別管理産業廃棄物（感染性廃棄物）収集運搬業の許可を取得。これにより収集運搬から中間処理、最終処分場までの一貫体制システムが完成。
- 平成21年 深谷クリーンサイトに新処理施設が完成。翌年福島県より、産業廃棄物処理施設（第2期処分場）の設置許可を取得。管理型最終処分場建設に着手。
- 平成25年 飯坂クリーンサイト第2期処分場操業開始。
- 平成29年 株式会社日本クリーンサプライを株式会社クリーンテックメディカルに商号変更。

クリーンテックグループの終わらない挑戦



浄化への挑戦

廃棄物を洗い流した浸出水は排出基準値以下のレベルにまで浄化した後、一級河川に放流しています。また、漏水検知システムや最高グレードの遮水シートによって、汚水を外部に絶対に漏出させない構造となっています。



大気保全への挑戦

排ガス処理工程ではバグフィルターやばいじん処理装置を組み込み、きれいなガスを排出する仕組みを確立。定期的に行われるダイオキシン類、CO₂濃度、ばい煙の測定数値は基準値をはるかに下回っており、その結果は「サーマル通信」で公表しています。



エコ技術・緑化への挑戦

中間処理施設におけるサーマルリサイクルシステムや最終処分場における地中熱利用の融雪システムのほか、伐採材を生育基盤の材料にリサイクルして植生の早期復元を試みるなど、さまざまな取り組みを行っています。



最先端の 処理技術の



に挑む。

かつて産業廃棄物処理には、水質汚濁や大気汚染といったネガティブなイメージが付きまといまわりました。しかし、クリーンテックグループは、最新のテクノロジーを駆使し、水や空気を汚さない廃棄物処理やリサイクルを実現しています。また、中間処理施設での排熱利用や第二期最終処分場で採用した地中熱利用のロードヒーティングなどでエコロジーにも配慮。日々革新を重ねています。

Interview

地域と共生し、
頼りにされる存在でありたい



株式会社クリーンテックサーマル
深谷クリーンサイト
場長
江間 正悟

自然への思いこそが、
未来を支える。



株式会社クリーンテック
常務取締役
吉崎 幹人

クリーンテックサーマルでは、中間処理施設として型式の異なる焼却炉を2系統稼働させています。中間処理施設の目的は、無害化と減量化。焼却することで滅菌し、体積を減らして最終処分場に送ります。現場を動かす立場から、火災や廃棄物に起因する事故防止に努めることはもちろんです。近隣の皆様に臭気等でご迷惑をおかけしていないかこちらからお伺いするように努め、できる限りの情報開示を行い、地域と共生できるオープンな処分場を目指しています。そして、当社が産業廃棄物処理業のイメージアップの先頭に立つとともに、排出事業者であるお客様や他の産業事業者からも頼りにされる存在になりたいと考えています。廃棄物処理での困った事やわからないことがあった時、「クリーンテックサーマルに聞いてみよう」と言っただけならうれいすね。



最終処分場である飯坂クリーンサイトは、最新の設備により安全できれいな環境を実現していますが、日々運用するうえで私が常に念頭に置いていることは、自然と共存することの大切さです。ことに最終処分場という特性から、水を大事に扱い、水をつくることに大きな注意を払っています。ここでいう「水をつくる」とは、汚水を浄化し、よりきれいな水に戻して河川に放流することです。埋立て終了後もこうした水処理は休むことなく続けられます。美しい環境を守るためにも、子供たちへの環境学習や地域の皆様への見学会など、様々な活動を通しクリーンテックの取り組みや考えを伝えていきたいと思っています。地域の皆様のご理解をいただき、末永くともに歩んでいくためにも、それは私たちに課せられた大切な仕事だと考えています。



クリーンテックグループが目指す、「開かれた、美しい処分場」へ

1 地域の皆様とともに



廃棄物処分場を運営していくうえで不可欠なことは、地元の皆様のご理解とご協力です。最新の技術を駆使し、安全に操業することは当然ですが、処分場が存在することによる不安を払拭しなければ私たちの目指す「共生」は成り立ちません。そこで、私たちクリーンテックグループは、行政と連携し「環境保全協定」を結び、市職員による立入調査など万全を期すとともに、施設見学会や地元の皆様のご意見を伺う機会を積極的に設けています。

2 よりわかりやすい情報公開

私たちは、より皆様に施設へのご理解をいただくため、研修ホールをはじめ、処分場の仕組みを解説した模型やパネル、水処理プラントを見下ろせるガラス張りの回廊を設けるなど、実際に見学していただくことで、その仕組みと安全性が理解できるように工夫をこらしています。また、定期的に発行している「クリーンテック通信」や「サーマル通信」で私たちの取り組みをお知らせするとともに、水質、ダイオキシン濃度、汚泥、燃え殻、CO₂濃度、ばい煙、騒音・振動、放射能管理などについての検査結果、測定値を報告しています。



※定期的に発行している広報誌「クリーンテック通信」「サーマル通信」

3 未来を担う子どもたちへ

かつて廃棄物処分場の見学が行われることはほとんどなく、その実態は一般の方々には非常にわかりづらいものでした。しかし、環境の重要性が叫ばれる時代となり、その一翼を担う私たちには、その内容を積極的に開示する責任があることはもちろん、大人だけでなく次代を担う子どもたちにも正しい知識を身につけてもらわなければならないと考えています。最終処分場である飯坂クリーンサイトでは、夏休みなどに「親子見学会」や高校生の課外授業等も実施していますが、今後さらにその内容を充実させていきます。



サクラ咲く、処分場へ。



2013年に建立されたモニュメント「水の舞」



ふくしま3・11復興桜植樹祭

10年後、桜で満開になる処分場。311本の桜に込めた願い。

2013年6月、竣工したばかりの飯坂クリーンサイト第二期最終処分場で植樹祭が行われました。

2011年に発生した東日本大震災を教訓にし、常に災害への備えを忘れることなく、またこの処分場も地元福島の復興に役立ちたいという想いから、三春地区で育った孫滝桜3本、山高神代桜、岐阜根尾谷淡墨桜の日本三大桜に加え、ヤマザクラ、ソメイヨシノ、シダレザクラの苗木、計311本を植樹しました。

そこには、震災に負けず前進

し成長しようとする気持ちとともに、未来にわたって自然環境を守り続ける私たちの決意が込められています。

10年後、15年後の春、この桜の下で多くの「笑顔の花」が咲くことを願って。

そして、同所に設置された「水の舞」という御影石のモニュメントは、すべての生命の根源である水を守ることの大切さをモチーフとして制作されました。

自然環境の尊さ、かけがえのなさを、それぞれの胸に刻みつけるシンボルになればと願っています。